

4年生と1年生の合同授業

2026年1月26日

臨床実習を終えた4年生は「作業療法統合実習」、1年生は「作業療法基礎」、という科目名で後期に同時開講される授業があり、両学年がコミュニケーションをとりつつ進められます。

4年生が臨床実習で経験した症例を通して、1年生と共に対象者を ICF (International Classification of Functioning, Disability and Health : 国際生活機能分類) という人の「健康状態」と「生活機能・障害」を分類する世界共通のフレームワーク) で説明します。ICF を用いることで単に病気や障害 (マイナス面) を捉えるだけでなく、その人が「どのような環境で、何ができるか (プラス面)」という全体像を整理することが可能です。

この授業を通し、1年生は、4年生をロールモデルとして、将来の姿を重ねます。作業療法の基本である、作業療法の対象者を「患者」ではなく「人」としてとらえる基礎を学びます。また、全体像を知るために専門知識の必要性を知り、今後の学びへの意欲を高めます。4年生は、まだ専門知識の少ない1年生に対し、自身の経験や知識を「伝える」ことを学びます。

